

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
1	○理念の具体化 サービス理念や運営方針は、家庭的な環境の中で、利用者の能力や尊厳を尊重したケアを行うなど、グループホームの特徴を生かしたものになっている。	○			
2	○理念の共有と実現 すべての職員が、ホームの理念にもとづき、常にその実現に取り組んでいる。	○			
3	○グループホームでの生活空間づくりの工夫 家族会と一緒に作った花壇に季節の花を入居者と一緒に植え、生け花にして飾ったり、ご近所への訪問の際に手土産にするなど花の絶えないホームです。外でも食事が出来るようテーブルなどを置き、桜の花見等季節に応じて楽しめる広い庭や室内にも季節を感じてもらおう工夫として、雛人形や盆提灯などを置き、5月の節句には鯉のぼりがフェンスに泳ぎ、入居者や家族又地域の方々を楽しませています。室内は心地良い音楽、雑音を減らすようにし、イベント毎の写真等掲示し、皆で楽しんでいます。				
4	○気軽に入れる雰囲気づくり 入居者や家族が入りやすい、近隣の住民も訪ねやすいなど、玄関まわりや建物の周囲が違和感や威圧感を感じさせないつくりになっている。	○			
5	○家庭的な雰囲気づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなど）をはじめ、調度品や設備、物品や装飾が家庭的な雰囲気になっている。	○			
6	○くつろげる場所の確保 居室以外に、自由に過ごせるような居場所がある。	○			
7	○居室の環境づくり 居室は、入居者一人ひとりの生活にあわせ、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれるなど、安心して過ごせる場所となっている。	○			
8	○入居者の身体機能の低下を補うことに配慮した環境及び生活空間づくり	○			
9	○認知症状に配慮した環境づくり 場所の間違いなどの混乱を防ぐための工夫がしてある。	○			
10	○落ち着いた暮らしができる快適な環境づくり 入居者が落ち着いて快適に暮らせるように、音の大きさ、光の強さ、におい、冷暖房などに配慮してある。	○			
11	○入居者に対するケアを行ううえで工夫されていること 呼び止められたら入居者の目の高さに合わせゆったりとした気持ちで、否定する事無く最後まで話を聴き、理解するよう努めています。またゆっくり話しかけ、声は大きすぎず、周囲が不快や驚きを感じないように努めています。個人の意思を尊重する為、生活の中での様々な判断は出来る限り自己決定のもと援助しています。努力目標として、“基本に戻ろう”を挙げ、その実現に向け努力されています。				
12	○個別・具体的な介護計画の作成 アセスメント（評価）に基づいて、入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な介護計画を作成するとともに、その計画の内容について入居者や家族に説明している。	○			
13	○介護計画への理解と実践 すべての職員が入居者一人ひとりの介護計画を理解し、その介護計画に沿ったケアを行っている。	○			
14	○職員間での情報の共有 職員間での申し送りや情報伝達を確実にしている。また、重要事項について、すべての職員に伝わる仕組みがある。	○			
15	○入居者一人ひとりの尊重 常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	○			
16	○職員の穏やかな態度 職員の態度がゆったりしており、入居者への言葉かけなど、やさしい雰囲気で接している。	○			

認知症高齢者グループホーム外部評価結果

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
17	○入居者のペースの尊重 ホーム側の決まりや都合で業務を進めていくのではなく、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			
18	○入居者の意志の尊重 入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。	○			
19	○自立への配慮 入居者の「できること、できそうなこと」について、できるだけ手や口を出さずに、見守ったり一緒に行うようにしている。	○			
20	○身体拘束のないケアの実践 すべての職員が、身体拘束についての正しい理解のもと、身体拘束をしないケアを実践している。	○			
21	○入居者と共同した食事の支度と後かたづけ 献立づくり、買い物、調理や後かたづけなどについて入居者と共同して行う工夫をしている。	○			
22	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や、便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理をしているかどうか。また、盛り付けの工夫等を行っている。	○			
23	○家庭的雰囲気のある食事支援 職員が入居者と同じ食事を楽しみながら、食べこぼし等に対する支援・介助をさりげなく行っている。		○		
24	○一人ひとりに応じた排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立した排泄へ向けた支援を行っている。	○			
25	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導や介助、失禁などへの対応は、入居者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			
26	○希望に合わせた入浴の支援 入居者が自分の希望に合わせて入浴できるように支援している。	○			
27	○希望に合わせた理美容院への利用支援 入居者の希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。	○			
28	○プライドを大切にされた整容への支援 入居者のプライドを大切にしながら、容姿や着衣の乱れ、汚れ等に対してさりげなくカバーしている。	○			
29	○細やかな安眠のための支援 夜眠れない入居者には、1日の生活リズムを通じた対策を取るなど、入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、安眠できるよう支援している。	○			
30	○主体的な金銭管理に向けた支援 入居者本人が日常の金銭管理を行えるよう、入居者一人ひとりの状況に応じた支援をしている。	○			
31	○ホーム内での役割・楽しみごとの創出 入居者がホーム内での役割や楽しみごとを見い出せるよう、家事や小動物の世話など、一人ひとりに応じた出番づくりをしている。	○			
32	○口腔内の清潔保持 入居者の状況に応じて、口の中の汚れや臭いが生じないように、歯磨きや入れ歯の手入れ、うがい等への支援、出血や炎症のチェックなど、口腔の清潔を日常的に支援している。	○			
33	○身体状態の変化や異常の早期発見、対応 入居者の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように努め、その状況を記録に残している。	○			
34	○服薬の支援 入居者の体調と使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者が医師の指示に従って服薬できるように支援している。	○			
35	○緊急時の対処体制の整備 入居者のけが、骨折、発作、のど詰まり等の緊急時に職員が応急手当を行うことができるようにしており、協力医療機関や消防、警察等とあらかじめ必要な事項を取り決め、連携体制を整えている。	○			

認知症高齢者グループホーム外部評価結果

グループホーム みどり

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
36	○地域における入居者の生活支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、買い物や散歩、集会への参加など、積極的に地域の中で楽しめるような機会をつくっている。	○			
37	○入居者家族のホーム訪問に関する配慮 入居者の家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、ホームに来やすい雰囲気をつくっている。	○			
38	○入居者家族との交流支援 入居者と家族とが交流できるように、食事づくり、散歩、外出、行事など、ホームでの活動に参加する機会をつくっている。	○			
39	○事業所としての組織的取組状況 法人代表者及び管理者は、現場の状況をよく理解して、職員と一体となって協力してケアサービスの向上に取り組んでいる。	○			
40	○入居者の状態に応じた職員の確保 GHCケアに適した資質を有する職員を採用するとともに、夜間を含め無理のない職員の勤務ローテーションを組むなど、入居者の状態や生活の流れを支援するための人員配置を確保している。	○			
41	○事故防止の対策 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合には、すべての職員が的確に対応できる体制を整えているとともに、再発防止対策を検討し、サービスの改善を図っている。		○		
42	○入居者家族からの意見や要望を引き出す工夫 入居者の家族が、気がかりなことや意見、要望などを気軽に伝えたり相談したりできるように、家族の面会時の声かけ、定期的な連絡等を積極的に行っている。	○			
43	○地域の人々との交流 入居者と地域の人々との交流のための取組みを行っている。		○		
44	○地域社会への貢献 認知症理解や関わり方についての相談への対応や教室の開催、研修生やボランティア等の受入れなど、グループホーム運営上培った知識や経験、技術などを地域社会に提供している。		○		
45	○ホーム全体の雰囲気 グループホーム「みどり」と言う名にふさわしく自然治癒力を高めるに十分な自然環境と広い敷地の中の併設施設の南側に立つホームです。木造平屋建てのホーム内も落ち着いた雰囲気の佇まいで、広々とした室内は天井も高く、室内にいても風や木々の音を感じられ、テラスからも阿蘇の山並みを望めることが出来ます。日当たりの良いパブリックスペースでゆっくりした生活が営まれており、ゆったりとした時の流れで、職員は入居者の目線になり、一人ひとりの人格・生活を尊重し、入居者に対しての言動も温かい雰囲気のホームです。				
46	○総合的な評価 管理者を中心とした理念のもとでチームケアの充実に熱心に取り組まれ、「基本に戻ろう」を合言葉に入居者への傾聴・強制的ないケア・自己決定の場面を作るなどのケアの実践となっています。ホーム内にデイサービスも併設され、日常的にはゆっくりとした生活と隣接施設の習字教室や民謡教室等に参加したり、季節に応じた外出支援等により画一的な生活リズムに陥らないよう努力されています。“しあわせがいっぱい”というホーム便りの中に生き生きと明るい表情となって表れています。“元氣な内に楽しんで、良い目に合わせたい。それを見るのが楽しみ”という家族の言葉通りに、多くの家族の訪問や家族会へも全家族の参加があり、時には家族ボランティアとして行事へも参加され一緒に楽しめたり、家族と職員の親睦会の開催等入居者・家族・職員の関係も良好であり各信頼関係が構築しているようです。併設施設との連携が密に図られており、外出時に機動力を発揮できることも利点の一つです。又、看取り介護まで視野に入れ、職員が生死観について学習を深め「生きる」姿を支えるために努力されています。				
47	○優れている点 目標の一つである地域に開かれた運営の確立としての小中学校の総合学習やワークキャンプ・ボランティアリーダー研修等を積極的に受け入れています。小学校との関わりは特に密になっており、入居者の手縫いの雑巾を送ったり、夏休みにはラジオ体操に庭を開放し子供たちとのふれあいの場にもなっています。職員の研修体制も確立し、職員が資格取得を目指しスキルアップに努め、今年度ケアマネージャー他多くの資格を取得されており、専門職としての今後の期待できます。又、透明化を図り、全ての情報のオープン化に臨まれ、事業計画や年間行事予定又外部評価結果等を誰でも見れるようにし、個々の介護計画書も居室にも設置したり、“えがおがいっぱい”というホーム便りに生活の様子や行事計画等を掲載し、ご家族へ配布する取組みが継続的に行なわれていることが、ご家族にも好評であり、絶大な信頼を得ているようです。日々の細やかな健康管理や的確なプランとバリアフリー化されたホームで、職員に支えながら自分らしく自分のペースでの生活を垣間見る事が出来ました。				
48	○努力が望まれる点 事故報告書に基づき、事故対策委員会で検討され十分な対策が講じられています。今後職員のヒヤリハット体験も記録として残され、これを分析することで事故防止に繋げていただきたいと思います。又、近隣住民の日常的な立ち寄りには少ないように見受けられます。今後運営推進会議や自治会などを通して近隣住民の訪問の促進とされたり、ホーム独自の催しなどに参加を促し、更に多くの近隣の方々の訪問に繋げていただく事を期待します。職員の中に認知症ケア専門士もおられますので、地域の中で専門職を生かした取組みとして、認知症の相談窓口となったり、介護教室等を企画し、講師としての参画に期待します。地域の拠点として発信していただきたいと思います。				

評価者：あすなる福祉サービス評価機構